

< 調査概要 >

北海道の主要水産品であるホタテの稚貝養殖において、養殖かごの安定のために設置するコンクリートブロック（骨材の一部にホタテ貝殻を使用）を基盤として海藻・海草を繁茂させることでCO₂を貯留（ブルーカーボン）することができないか実証試験を行い、CO₂貯留効果の検証を行うとともに、他地域への横展開方策について検討した。

調査内容

○ 実証試験の実施

【期間】 R5年度～R7年度（モニタリングの延長あり）

【体制】

- ・有識者を含む検討会を設置

【実施内容】

- ・条件の異なる複数のパターンでコンクリートブロックを設置。（コンクリートブロックの形状、設置位置、母藻の有無等）
- ※コンクリートブロックは骨材の一部にホタテ貝殻を使用。

【モニタリング調査による検証事項】

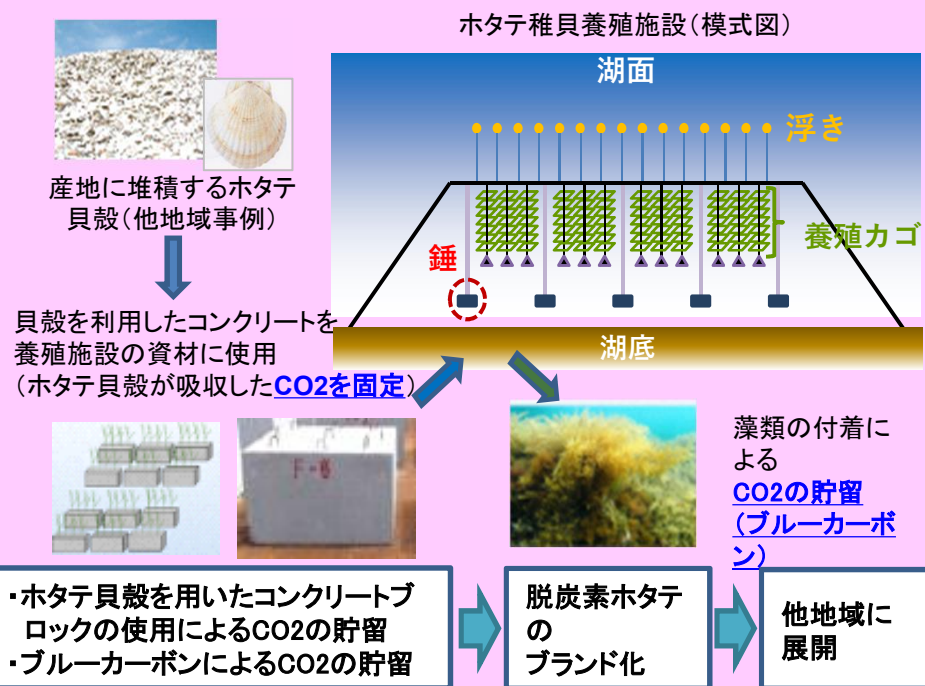
- ・海藻の繁茂が良好なパターン
- ・CO₂貯留量の試算

○ 他地域への展開方策の検討

- ・他のホタテ稚貝養殖箇所への展開、海岸に設置するコンクリート構造物への展開の可能性を検討
- ・ゼロカーボンに取り組んだことによる付加価値を付けたホタテのブランド化を検討

【検討体制：能取湖におけるゼロカーボン推進検討会】

- ・実証試験の計画、実施、モニタリング、評価に関する検討
（構成員：国土交通省、水産庁、北海道、市町村、漁業団体、試験研究機関、有識者）



地域資源（貝殻）の有効活用、「ゼロカーボン北海道」実現への貢献